板紙・段ボール新聞

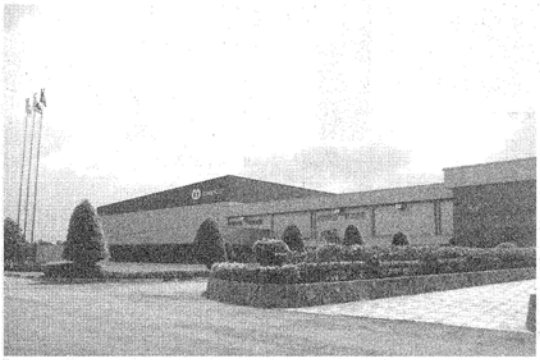
（昭和35年12月7日・第三種郵便物認可）
毎月7日、17日、27日発行
第二七四四号
（二〇一九年）
元年9月17日

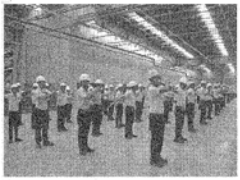
日刊板紙段ボール新聞社
東京都文京区湯島4－6－11 A－509
TEL 03－5689－0121 FAX 03－5689－0120
http://www.itadan.com
Email: info@itadan.com
購読料 年間 27,000円（価格は税抜）

ベトナムで育むトーモクイズム

ベトナム社会主義共和国は、1986年採択の『ドイモイ（刷新）』以降、市場経済システム導入および対外開放を推進、時々の世界的なリセッションの影響等は受けつつも、高い経済成長を持続している。ここ数年をみても多くが6％台後半を維持、ASEAN屈指の成長国となった。当然、日系企業も多く進出しており、外務省の資料によれば、2017年10月時点で1816企業（拠点）、過去4年で500以上増えている。

ならば、あらゆる産業と取引関係にある段ボールメーカーが進出すれば、すぐに大きな成果を得られるはず、まして日本最高峰のメーカーとあれば。そんな勢いと熱気溢れる様子を間近で感じてみたいと今回、南部に位置し同国最大の経済都市、ホーチミン・シティ郊外のトーモクベトナムを訪問した。結論からいえば順調に成果を残している点は、全くその通りであったが、一方で成功が決して簡単ではないと痛感させられた。と言うより、想像以上の苦難を経て現在がある。そしてあり、独資による進出。





フック工業団地に立地する工場は、他の産業を含めて、前例がないという完全日本仕様。「日系段ボールメーカーでいえば20年以上後発。まして段ボールは差別化が難しい。相当なインパクトが必要だと考えて決断した。これは国内事業所も同様の思想だが、単なる建物ではない、トップセールスマンとの位置づけである」と廣瀬社長は強調する。

当然、未知の挑戦、苦労の連続であった。大手ゼネコンの現地法人に依頼したが、地震が滅多にない同地では、通常、レンガとモルタル構造で日本と同様の施工経験（技術）がない。まずは敷地内で入念な組み立てのシミュレーションを実施してから起工、必要な資材も多くを日本から運んだ。断熱パネル材の外壁に、内面の化粧ボード仕上げで、経年劣化が低く、防虫、遮音性等々、機能性は群を抜く。加えて屋根の勾配と吸排気の管理で、温度上昇の抑制と高い衛生環境を実現する「トモネイチャーシステム」も採用している。同時期に竣工した神戸にも匹敵する最新工場が完成した。

敷地面積6万平米の広大な敷地に、3万1200平米の工場。「（建屋は）当初から最終形」（廣瀬社長）だが、製販はじめ何から何までゼロからのスタート。試行錯誤の中、成長を遂げてきた。作島勝副社長以下4名の常駐者以外、170名あまりの従業員は現地採用のベトナム人である。

従業員にとって給与水準など労働条件は当然重要だ。まして近隣アジア、欧米系企業が数多も進出する同地は、売り手市場の側面が強い。終身雇用的な考え自体もほぼ皆無。人材確保はそうそう容易いことではない。そんな中、企業は教育の場ではないが、日系企業で、トーモクで働く意味も考えてもらいたい、一人前の社会人としてしっかりけん引してもらいたいとの思いから、日本から遠く4300㌔の地でも変わらず「トーモクイズム」の浸透を目指した。

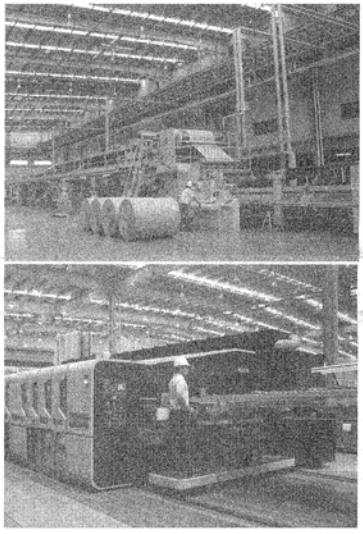
訪問当日、現地に着いたのが始業時間の8時少し前、工場2階の踊り場スタートである。白子修営業部長は設立後すぐに赴任。まずは日系企業にターゲットを絞って営業活動を開始した。半径80㌔圏内の工業団地の日系企業をピックアップし、地道に回った。東京の営業部のサポートもあるが、基本的には自らの両肩に圧しかかる責任は重い。日本人街に出向き、酒の席と恐縮しつつも、駐在員に声をかけたとのエピソードは、軌道に乗った今だから話せることだろう。次いで現地に製造拠点を置くグローバル企業に拡大、最後はシート販売も含めたローカル企業へと広げていった。

貼合能力（台湾製コルゲータ、2200㎡×230㎡、製造段種A、B、C、E、AB、CB）は、月産700万平米（2直）で、現在はフル稼働に近い状況。段種はC段が最も多いが、輸出向けも多く、WF（CB段）の比率も高い。大ロットと小ロットが混在しているのも特徴で、例えば「館林とトーシンパッケージの仕事を1工場で製造している」感覚に近いという。

営業拡販もゼロからのスタートである。白子修営業部長は設立後すぐに赴任。まずは日系企業にターゲットを絞って営業活動を開始した。半径80㌔圏内の工業団地の日系企業をピックアップし、地道に回った。東京の営業部のサポートもあるが、基本的には自らの両肩に圧しかかる責任は重い。日本人街に出向き、酒の席と恐縮しつつも、駐在員に声をかけたとのエピソードは、軌道に乗った今だから話せることだろう。次いで現地に製造拠点を置くグローバル企業に拡大、最後はシート販売も含めたローカル企業へと広げていった。

貼合能力（台湾製コルゲータ、2200㎡×230㎡、製造段種A、B、C、E、AB、CB）は、月産700万平米（2直）で、現在はフル稼働に近い状況。段種はC段が最も多いが、輸出向けも多く、WF（CB段）の比率も高い。大ロットと小ロットが混在しているのも特徴で、例えば「館林とトーシンパッケージの仕事を1工場で製造している」感覚に近いという。

ここで働く誇りと熱意



Ⓑコルゲータ（2200×230）Ⓒ5色単体機、ともに台湾製

このことがトーモクベトナムの方向性を決めたといえる。ホーチミン・シティから北西に約45㌔、ビンズン省の国営・ミー